

トヨタ環境活動助成プログラム 報告

庄野俊平（社団法人 日本ネイチャーゲーム協会）

はじめに

今年度予定されている学習指導要領の改訂の中では「体験」が重要視されており、学校教育におけるネイチャーゲームなどの体験を重視した環境教育が今後注目されることが予想される。日本ネイチャーゲーム協会でも、これまで学校ニュースレターの発行や『学校で役立つネイチャーゲーム20選』（明治図書）の執筆をてがけ、神奈川県相模原市立富士見小学校において全教員を対象としたリーダー養成講座の開講も行ってきた。

さらに、昨年度トヨタ自動車が提供する環境活動助成プログラムを活用し、環境教育のための教員研修プログラムを開発し、ネイチャーゲームをはじめとした体験型の環境教育をより積極的に授業に取り入れるための事業を展開した。以下で、事業について、概要及び成果と課題について報告したい。

●事業の概要

本事業では、日本協会の指導者養成委員でもある日置光久氏をはじめとした学校教育の専門家や、現場の教員から構成される体験型環境教育研究会を立ち上げ、教員研修プログラムの開発を行った。さらに、開発したプログラムを横浜市立井土ヶ谷小学校と、日本協会が主催した小学校教員対象の教員研修セミナーにて展開した。

教員研修を行う上で、主に3つの段階を設定した（図1参照）。第一段階の研修は、教員がネイチャーゲームの見学や体験を通して、ネイチャーゲームをはじめとした体験型の環境教育を学校の教育課程に導入する意義を教員に実感してもらうことを目的とした（Step1）。

図1 教員研修の概要

項目 内容	授業に活かす自然体験活動を進めるための教員研修セミナー	横浜市立井土ヶ谷小での取り組み
Step1 (体験型環境教育の見学・体験)	第1回 (7/17) 第2回 (8/13)	見学研修 (赤城林間学校 : 7/5-7) 体験研修 (リーダー養成講座 : 7~8月)
Step2(授業での実践)	9~10月	9~12月
Step3(実践の報告)	実践報告会 11/23	報告会 12/26

具体的には、井土ヶ谷小学校5年生の宿泊学習（赤城林間学校）の中で、ネイチャーゲームが導入され（図2参照）、教員に活動を見学し子どもや自身の変化を記録してもらった。さらに、リーダー養成講座を開講し、ネイチャーゲームの体験実習とその思想についての講義を行った。

図2 赤城林間学校プログラム概要

時間	内容
1日目 昼	生きものへの関心を高める ＜動物質問室＞
夜	周囲の音へ敏感になる ＜ノアの箱船＞
2日目 朝	早朝の森の中で鳥の声を聞く ＜音いくつ＞・＜サウンドマップ＞
昼間	单元につながるネイチャーゲーム ＜この指とまれ＞（单元：理科『植物の発芽』） ＜自然へのインタビュー＞（单元：国語『インタビュー名人になろう』）
夜間	夜の自然体験 ＜カメレオンゲーム＞
3日目 朝	早朝の自然体験 ＜カメラゲーム＞



見学研修（赤城林間学校）の一コマ



体験研修（リーダー養成講座）の様子

もう一つの教員研修セミナーでは、ネイチャーゲームの体験をはじめ授業の中に具体的に導入する方法についての実習と学校教育に体験型の環境教育を導入する意義についての講義が行われた。



教員研修セミナーの様子 ①



教員研修セミナーの様子②

第二段階の研修は、授業でネイチャーゲームを実践する力を養ってもらおうと同時に実践する上での成果と課題を明確にすることを目的とし、教員にネイチャーゲームを実際に授業に取り入れてもらい実践報告書を提出してもらった(Step2)。研修の最後の段階として、教員による授業での実践の成果と課題を共有することを目的とした実践報告会を行った(Step3)。

●事業の成果

1) 教員が学校とは違った子どもの一面に出会える

井土ヶ谷小学校での見学研修(赤城林間学校)では、子どもたちが自然とのより深い結びつきを得て、いきいきとした姿を出会った教員から驚きの声が上がっていた。例えば、夜の自然体験として行った<カメレオンゲーム>では、いつもは騒がしい子どもたちが静かに活動に集中している事に多くの教員が驚いていた。また、朝の活動で行った<カメラゲーム>でも時間を一杯使って、自然の美しい一瞬を一つでも多く楽しもうとする子どもの姿に感動する教員もいた。

2) 授業における実践から得られた成果

ネイチャーゲームを授業で実践する上での成果として、ネイチャーゲームによって子どもが主体的に活動するとようになることが挙げられる。

日頃ほとんど文章を書こうとしない子どもが、<目かくし歩き>でじっくり自然を体験した後に、活動の感想を授業の後も書いているという報告もあり、ネイチャーゲームを通じた子どもの変化が読みとれる。また、生きものについて学ぶ単元でノーズを行った事例では、はじめは答えるだけの子どもたちが、最後には習ったことを活用して子どもたちがヒントを出すようになった。

●事業の課題

1) 授業での実践における課題

授業での実践における主な課題として、ネイチャーゲームを行った後の評価の手法の確立が挙げられる。学校教育においては、必ず授業での活動に際し、子どもがどのような力をつけたかについての「評価」を行う必要があるが、ネイチャーゲームが授業で実践される上での評価についてはまだその手法が十分に確立されておらず今後研究が必要である。

2) 事例の蓄積の必要性

授業での実践で上記の通り成果や課題が見えてきたとはいえ、生活科や理科などの教科に実践が偏り、まださまざまな教科での実践事例が十分とは言えない。今後は、実践の少ない教科や教科外の活動における実践事例と、それらを通して、学校教育にネイチャーゲームを取り入れていく際の成果や課題についての研究が必要であると言える。